

# 2018年度 センター試験 本試験 倫理

## 第1問 現代社会と倫理

出題範囲	青年期, 社会思想, 現代思想
難易度	★★☆☆☆
所要時間	得意: 11分 ふつう: 14分 苦手: 16分
傾向と対策	現代の思想や倫理の分野から幅広く出題された。教科書などではあまり触れられていない領域であるが、総じて難易度はそこまで高くはなかったと考えられる。問4のようなややわかりにくい表現での出題もあったが、正誤判定ははっきりと誤りといえる部分を探して判断するようにしたい。

問1  正解は⑦

難易度 ★★★★★

解説

まず選択肢から a にはアかイ, b にはウかエ, c にはオかカが入るとわかる。そのうえでどちらが適切かを順番にみていく。

- a 市場経済がグローバル化したことにより, 1997年の**アジア通貨危機**や2008年の**リーマン・ショック**に代表されるように, 一国の経済不安が世界全体に影響を及ぼすようになった。また, 先進国は**政府開発援助**(ODA)などを行い発展途上国の経済発展を支援しているが, 経済格差は依然として残っている。よって, a には**イ**が入る。
- b 世界の飢餓や貧困を救済することは人類の福祉の向上につながり, また経済的要因による紛争も減少させると考えられるため, 国際平和につながるといえる。**新自由主義**とは, 政府による規制を緩和し, また国際経済秩序のもとでの自由競争を重んじる経済学の一派であり, 飢餓や貧困を積極的に救済しようとする考え方ではない。よって, b には**エ**が入る。
- c 性別役割分担は, かつては生物学的な性差に依拠するものであるとも主張されたが, 現在では社会的・文化的な性差によって生じたものだとする考え方が主流である。性役割の文化的・社会的背景を問い直すことは, 性に関する偏見を取り除き, 性差別の解消につながると考えられる。よって, c には**オ**が入る。

以上より, a が**イ**, b が**エ**, c が**オ**となる⑦が正解である。

問2 2 正解は①

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 誤 アメリカの教育学者ハヴィガーストは、人生の各段階で達成すべき**発達課題**の概念を提唱し、さらに青年期の発達課題として10項目を挙げている。その中には両親などの大人から情緒的に独立することが含まれるが、親の価値観を内面化したり親との情緒的なつながりを深めることは含まれていない。
- ② 正 ハヴィガーストが挙げた青年期の発達課題には、経済的自立の準備を進めそれに自信をもつこと、同年代の他者との洗練された交際を行うことが含まれる。ハヴィガーストの発達課題は大きく①集団に関すること、②自立に関すること、③人生観に関すること、の3つに分けられる。整理して覚えるようにしたい。
- ③ 正 アメリカの心理学者**オルポート**は成熟した人格になるための条件として6つの項目を挙げている。その中には、自身ばかりに向けていた関心を自分以外の人やものに広げるという自我の拡大、また自己を客観視する能力が含まれる。
- ④ 正 オルポートが提唱した成熟した人格になるための条件には、自分自身の人生哲学をもつこと、自分をメタ認知し、他人の意見に耳を傾け、ユーモアを理解することができるようになることが含まれる。

問3 3 正解は⑦

難易度 ★★★★★

## 解説

- ア イギリスの社会主義者**オーウェン**は、労働者の劣悪な環境を改善することを目的としてスコットランドのニューラナーク工場において労働条件の改善を行い、また自らの社会思想の実現のためアメリカに渡り、理想の共同体**ニューハーモニー村**の建設を試みた。**エンゲルス**は**マルクス**とともに『**共産党宣言**』を著した社会主義者であり、共産主義の理論的基礎を築いた。
- イ インドで「**死を待つ人の家**」を設立して社会的弱者の救済にあたったのは**マザー・テレサ**である。**ガンディー**は、**非暴力・不服従運動**を率いてインド独立の指導者となった人物である。
- ウ アメリカで黒人の公民権運動を率い、人種差別を批判する活動を行ったのは**キング牧師**である。**ラッセル**は哲学者・数学者として活躍した人物で、**アインシュタイン**らとともに核兵器廃絶運動を行ったことでも知られる。

以上より、アがオーウェン、イがマザー・テレサ、ウがキング牧師となる⑦が正解である。

問4 4 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

ア 正 アメリカの心理学者マズローの欲求階層説では、集団への帰属や親和を求める愛情と所属の欲求が満たされると、名誉や自尊心などを求める承認の欲求が生じるとされる。

イ 正 欠乏欲求とは自己実現の欲求を除く欲求のことで、生理的欲求・安全の欲求のほかアにある2つの欲求が含まれる。これらが満たされることで成長欲求である自己実現の欲求が生じるようになる。

以上より、アが正、イが正となる①が正解である。

問5 5 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

① 誤 少子化や単身世帯の増加によって家族内だけで介護を行うことが難しくなっている中、被介護者の自立支援や家族による介護のサポートを行うことを目的としてつくられたのが介護保険制度であり、40歳以上の日本国民全員が加入対象となっている。

② 誤 1995年に制定された育児・介護休業法は、仕事と育児の両立を図るために育児休業を保障し、女性の社会進出を積極的に進める目的で制定された。2017年の改正では、育児目的の休暇の新設や、より育児休業を取りやすい制度の整備などが盛り込まれている。

③ 正 日本では、上述の介護保険制度に加えて地域が主体的に取り組み、被介護者が住み慣れた地域で介護を受けられるようにするという地域包括ケアシステムが構想されている。

④ 誤 少子化により国民1人当たりの介護保険の負担増加や家族介護が困難になることなどが懸念されており、高齢者の介護の充実も1つの目的として少子化対策がとられている。

問6 6 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

① 正 自然の生存権とは、人間以外の生物にも生存の権利があることを認め、人間にそれを守ることを求める考え方のことで、地球の有限性、世代間倫理と並ぶ環境倫理学の柱の1つである。

② 誤 地球温暖化は二酸化炭素やメタンに代表される温室効果ガスが産業革命以後の人間活動によって増加したことが原因で生じているとされている。フロンガスによるオゾン層の破壊は極地の上空にオゾンホールをつくりだし、有害な紫外線による健康被害などの問題が生じている。

③ 誤 予防原則とは、環境破壊がどのような被害をもたらすかが完全に明らかになっても、社会にとって重すぎる負担にならないのであれば、不可逆的な被害を避けるために予防策をとるべきである、とする環境倫理学における考え方である。

- ④ 誤 **酸性雨**の原因は化石燃料の燃焼などによって生じる窒素酸化物や硫黄酸化物であり、土壌や河川を酸性化し環境に悪影響をもたらすほか、コンクリートを溶かす、金属を錆びつかせるなどの被害をもたらす。原子力エネルギーの利用に伴って生じる放射性物質は人体に健康被害をあたえる危険性があるが、酸性雨の原因とはならない。

問7 7 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 2015年の総人口に占める高齢者の割合が高い上位3か国は順に日本、イタリア、ドイツであるが、2050年の上位3か国は日本、イタリア、韓国となっており、2015年と一致しない。韓国では出生率の低下が著しいため高齢化が急速に進んでおり、対策が求められている。
- ② 正 中国では1人っ子政策の影響で将来的に高齢化が急速に進むと考えられており、またブラジルでも出生率の低下による高齢化が問題となっている。
- ③ 誤 確かに中国、インド、ブラジルでは2050年の総人口に占める高齢者の割合が2015年の2倍以上となっているが、韓国も同様に2倍以上となっており、総人口が影響しているとはいえない。
- ④ 誤 後半部分が誤り。2050年には6か国で総人口に占める高齢者の割合が20%を超えるが、インドでは13.7%と依然として20%以下に留まっている。インドではかねてより出生率が高く、高齢化はゆるやかに進行すると予測されている。

問8 8 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 前半部分が誤り。「政治的責任を引き受けるためではなく、政治の失敗による非人間的な苦しみをまず和らげるために活動」する、とあるように、人道主義は政治の失敗の責任を引き受けるわけではない。
- ② 誤 前半部分が誤り。「人道的活動は、活動のための枠組みを必要とします」とあるように、人道主義の活動には**国際人道法**のような法的枠組みが必要とされている。
- ③ 正 「活動は政治的な影響を受けてはなりません」、また「政治は、人道主義の存在を保証する責任を自覚しなければなりません」といった内容と合致している。
- ④ 誤 後半部分が誤り。国際人道法は人道主義の活動を可能にするための枠組みをあたえるのであって、人道主義の活動に対して制限を加えるわけではない。むしろ国家によって枠組みの正常な機能が妨げられているのが問題であると述べられている。

問9 9 正解は④

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 誤 インドの経済学者センが提唱した「潜在能力（ケイパビリティ）」とは、自らの生き方を選択できる個々人の自由のことであり、個人の才能のことではない。また、財が分配されるべき理由は個々人が潜在能力を発揮できるようにするためであって、財や所得の豊かさ自体が福祉の目標ではない。
- ② 誤 後半部分が誤り。潜在能力を発揮するために財が分配されるべきとしているのであって、財や所得の豊かさが福祉の目標ではない。
- ③ 誤 前半部分が誤り。潜在能力は自らの生き方を選択できる個々人の自由のことを指しており、個人の才能のことではない。
- ④ 正 潜在能力の説明、福祉の目標の説明ともに正しい。センの導入した潜在能力アプローチは、福祉の指標として選択肢の有無を考慮に入れることで、従来の結果を重視する傾向にあった厚生経済学に新しい流れをつくり出した。

問10 10 正解は③

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 誤 後半部分が誤り。「動機が利己的じゃない行為なんてないと思う」と述べているように、Aは利他的な動機は存在しないと考えているが、一方で「利他的動機がなくても優しい社会はつくれる」と述べているように、利己的な動機にもとづいてはいても助け合いが存在する社会を実現することは可能であると考えている。
- ② 誤 後半部分が誤り。確かにBは、「いざってときに助けてもらえる」から後輩に優しくするべきだというAに対して、そのような考え方は「利己的で不純」と述べており、人のためになる行為であっても動機が利己的であってはならないと考えているが、他者のためという気持ちなしでは解決できないことがあるとは述べているものの、行為の結果については述べていない。
- ③ 正 「人助けしたいのも自分の欲求」「どんな行為も、結局は欲求の満足が動機」と述べているように、Aは利他的にみえる行為も結局は利己的動機によるものだと考えている。また、「利他的動機がなくても優しい社会はつくれる」として介護や医療保険を例に挙げていることから、助け合いが純粋な善意による必要がないと考えていることもわかる。
- ④ 誤 後半の「人助けしたいという欲求も、その欲求の満足という見返りを求めているので、利他的動機とはいえない」はAの考え方である。Bは「人助けしたいという純粋な善意は、利他的動機と言うべき」と述べているように、人助けしたいという気持ちは利他的動機であると考えている。

(井口凜人、有田瑞生)

## 2018年度 センター試験 本試験 倫理

## 第2問 先人の生き方と思想

出題範囲	源流思想
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：10分 ふつう：14分 苦手：16分
傾向と対策	源流思想の幅広い分野から出題された。問われたのはどれも基本的な内容ばかりであったため、取りこぼしのないよう根拠をもって判断していくことが重要であった。選択肢の正誤を判定する際には誤りを見つけるだけでなく、正しいものを正しいと判定できるようにしたい。

問1 11 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 『スッタニパータ』はブッダの言葉を収録した最古の仏教聖典の1つで、複雑な教理ではなく、単純素朴に人の歩むべき道を記しており、「人々が生まれつきの身分にふさわしい活動をするための模範」ではない。また、ブッダは自らの社会的身分に即して活動したのではなく、むしろ既存の身分制度を否定したため前半部分も誤りである。
- ② 正 六信とはイスラーム教において信じるべきだとされているアッラー・天使・聖典・預言者・来世・天命の総称である。イスラームの啓典（聖典）であるクルアーンは、信仰に関する内容だけでなくイスラーム社会の日常生活についても規定している。
- ③ 誤 ホメロスは古代ギリシアの詩人であり、『イリアス』はトロイア戦争を題材にしたギリシア最古の叙事詩、『オデュッセイア』はトロイア攻略後の帰国に関する物語である。どちらも英雄叙事詩であり、神話的世界観を基礎として、人間が自己に課せられた義務を自己の意志によって達成することを表現しているため、神話的世界観を否定するものではない。
- ④ 誤 ユダヤの民であったイザヤは旧約聖書の中で最大の預言者であるとされるが、当時危機に瀕していたユダ王国を賞賛したのではなく、神をひたすら信じ、他国の支援を仰ぐべきではないと主張した。

問2 12 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 イスラーム教の教典であるクルアーンはアラビア語で著されている。なお、旧約聖書はヘブライ語、新約聖書はギリシア語（コイネー）で記されている。
- ② 誤 イスラーム教徒（ムスリム）が行う五行の1つである礼拝（サラート）は、すべてカーバ神殿が存在する聖地メッカの方角に向かって行われる。エルサレムにはムハンマドが昇天した地とされる岩のドームが位

置し、メッカ、メディナとともにイスラーム教の三大聖地に数えられる。

- ③ 正 イスラーム教徒が行うべきおもな義務とされる五行は、**信仰告白**（シャハーダ）、**礼拝**（サラート）、**喜捨**（ザカート）、**断食**（サウム）、**巡礼**（ハッジ）からなる。このうち喜捨は、貧しい人々を救うために現金や食物をモスクに納めることを指す。
- ④ 誤 「**啓典の民**」とは、旧約聖書や新約聖書といった共通の教典をもつキリスト教徒・ユダヤ教徒をイスラーム教徒が指している言葉である。イスラーム教においては、モーセやイエスもムハンマドに先立つ預言者であると考えられている。

問3 13 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 「人間の性の善さというのは後天的なしわざの結果である」と書かれているように、荀子は礼儀や作為はあらかじめそなわっているものではなく、君子が尊重されるのは生まれつきの性を変えて礼儀を身につけたからであると述べている。
- ② 誤 「優れた君子も、つまらない小人とその性は同じである」と書かれているように、荀子は聖人の性も小人と異なっているわけではないと考えている。
- ③ 誤 聖人たちが「生まれつきの性を変えて後天的な作為を起こし」た結果、「礼儀をつくることができた」と書かれているように、荀子は生まれつきの性は変わり得るものであると考えている。
- ④ 正 「そもそも堯や禹やまた一般の君子を尊重するわけは……礼儀をつくることができたからである」の部分に一致しており正しい。荀子は**性悪説**を唱えた中国の儒家であり、後の**法家**などに影響をあたえた。

問4 14 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

アリストテレスによると、事物は素材である**質料**（ヒュレー）と本質である**形相**（エイドス）から成り立っており、形相は質料の中にあらかじめ存在している。そして形相が質料の中に潜んでいる状態を**可能態**（デュナミス）、形相が現実にもとって現れた状態を**現実態**（エネルゲイア）という。

- ① 誤 まず、形相は質料の中にあらかじめ存在している。また、事物の目的は質料ではなく形相の実現である。
- ② 正 前半の説明、後半の説明ともに正しい。
- ③ 誤 まず、形相は質料の中にあらかじめ存在している。したがって、事物の生成・発展は定まった形相を実現する形で起こるため、偶然的で自由な仕方とはならない。
- ④ 誤 後半部分が誤り。潜在性をもつのは質料ではなく形相である。また、その生成・発展は偶然的ではなくあらかじめ本質として定まっている。

## 問5 15 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 まず、仁と礼にもとづく政治は**王道政治**であり、これを説いたのは**孟子**である。**霸道政治**は権謀や武力による政治のことを指し、王道政治と対比される。
- ② 誤 本選択肢は**老子**の思想の説明である。老子は「**大道廢れて、仁義有り**」と述べたように、本来の自然な生き方である**道**に従う生き方が**廢れたため礼が必要になった**と考えている。
- ③ 誤 **大乘仏教**で理想とされるのは自らの成仏よりも衆生の救済を優先する**菩薩**のあり方である。なお、**阿羅漢**は**上座部仏教**において修行者の最高位とされる境地のことである。
- ④ 正 菩薩は「一切衆生を救いたい」という願望をもっているが、これも**煩惱の1つ**であるため成仏することができない。それでも**なお利他行を優先する**というあり方が**大乘仏教**で理想とされるのである。

## 問6 16 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- ① 正 八正道の説明、正業の説明ともに正しい。**八正道**は中道に生きるための修行法を示したものであり、正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定の8つからなる。その1つの**正業**は、生命を傷つけず、正しい行為を行うことを指す。
- ② 誤 後半部分が誤り。正業とは生命を傷つけず、正しい行為を行うことを指している。本選択肢が説明しているのは八正道の1つである**正見**である。
- ③ 誤 前半部分が誤り。八正道は、中道に生きるための修行法を具体的に示したものである。**六波羅蜜**の教えに由来する修行は、**ナーガールジュナ（竜樹）**が理論化した**大乘仏教**の教えである。
- ④ 誤 八正道は、中道に生きるための修行法を具体的に示したものである。また、正業とは生命を傷つけず、正しい行為を行うことを指している。なお、六波羅蜜という言葉は6つの「完成」を意味し、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧という6種の修行を指す。

## 問7 17 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- ① 正 パウロは、人間は生まれながらに**原罪**という罪を背負っているため、本来望んでいない悪を行ってしまうとした。そして、この原罪から救われるためには**神の愛と恩寵によりあたえられた信仰**を行い、イエスの教えに従って隣人を愛しなさいと説いた。
- ② 誤 前半部分は正しいが、後半部分の「**神との契約である律法を正しく遵守するべきである**」という部分が誤り。律法の遵守を説いたのは**ユダヤ教**であり、もともとユダヤ教徒であったパウロは律法の遵守を押し



しつけないキリスト教に回心した。

- ③ 誤 人間が望まない悪を行うのは、肉体の情欲のせいではなく、生まれながらに背負う原罪によるものである。また、パウロは「罪のない本来の自己を再発見」すべきだとは言っておらず、あくまで信仰によってのみ救われるとした。
- ④ 誤 前半部分が誤り。また、「善行を積むことによって、神から義とされるよう努力すべきである」という部分も誤り。パウロは、そのような努力で人間は神に義とされ救われるのではなく、信仰によってイエスを信じることで神に義とされ救われるとした。

問8 18 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ア 誤 後半部分が誤り。ブッダによればあらゆるものは不変ではなく（諸法無我）、何かに依存して存在している（縁起）。このことを知らないために（無明）さまざまな苦しみが生じるとされる。
- イ 正 プラトンは、魂は理性・気概・欲望の3つの部分からなり、理性が気概と欲望を従え知恵・勇気・節制の徳を備えることで正義の徳が実現すると考えた。なお、この3つの徳と正義の徳を合わせて四元徳という。
- ウ 正 朱熹（朱子）によれば、人間の心は理そのものである（性即理）が、物質的なものである気に触れることによって情や欲が発生してしまう（氣質の性）ので、心に理が実現するよう努力する格物致知が重要であると説いた。

以上より、アが誤、イが正、ウが正となる④が正解である。

問9 19 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 確かに本文では欲望に流されてしまう人間の弱さについて言及されているが、それは模範を必要とすることに對して触れられているのであり、模範に従うことができないということに関しては触れられていない。
- ② 正 本文の内容を全体的に踏まえており正しい。
- ③ 誤 後半部分が誤り。ブッダやパウロの考え方に代表されるように、人間はもともと欲望に囚われてしまう弱い存在であるからこそ善き生の模範を必要とするのである。
- ④ 誤 後半部分が誤り。本文ではイスラーム教、孟子、アリストテレス、仏教、キリスト教にふれているが、いずれも理想的な模範から学ぶことの重要性を述べており、模範を不要とする考え方にはふれていない。

（井口凜人、有田瑞生）

# 2018年度 センター試験 本試験 倫理

## 第3問 日本の先人たちの「教え」

出題範囲	日本思想
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：11分 ふう：13分 苦手：15分
傾向と対策	日本思想の幅広い分野から出題された。問6や問7のように聞きなれない人物の思想が選択肢に含まれている問題もあったが、各選択肢が誰を指しているのかわからなくとも選択は可能であったはずである。全体として難易度は標準的であったため、正確な知識が求められたといえる。

問1 20 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- ① 正 イカヅチ（雷神）やワタツミ（海神）といった名でよばれることからわかるように、古代の日本では、人間に畏怖を抱かせる自然現象や人知を超えた不思議な現象は神のあらわれとされた。このように不定形でさまざまなものに宿り現れる態様を八百万の神という。
- ② 誤 アマテラスは高天原を治める神ではあるものの造物主ではなく、祀り祀られる神として他の神を祀る巫女神である。
- ③ 誤 後半部分が誤り。古代日本では神の崇りによるさまざまな脅威を鎮めるために積極的に祭祀が行われ、それが後の神道に発展したとされる。
- ④ 誤 確かに神は周囲の海・山の向こうの他界に住むとされたが、まれびと（客人）として来訪するなど定期的に現世の人々と交流しており、生活に深く関与した存在だったとされる。

問2 21 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ア 誤 本選択肢は鎌倉時代の真言律宗の僧叡尊と忍性の説明である。彼らは架橋事業や道路の修繕に尽力したほか、特に忍性は奈良に北山十八間戸という病人の救済施設をつくるなど社会事業にあたったことで知られる。鑑真は中国の僧で、6度にわたる航海の末来日して日本に律宗を伝え、また奈良に唐招提寺を開いた。
- イ 正 空海は真言宗の開祖である。804年に唐で密教を学び、帰国すると高野山に金剛峯寺を開いた。そのほか庶民教育のため京都に綜芸種智院を設立したり、讃岐の満濃池の改修に尽力したりするなど多方面で活躍

した。

ウ 正 一遍は時宗の開祖となった鎌倉時代の僧である。各地を行脚しながら**踊念仏**を広めて信仰を集め、**捨聖**や**遊行上人**とよばれた。

以上より、アが誤、イが正、ウが正となる④が正解である。

問3 22 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- ① 正 日蓮は、自らが著した『立正安国論』を時の執権北条時頼に献上し、正法である法華経を中心とした社会の形成によって国家の安寧を実現することを説いた。
- ② 誤 日蓮は、当時盛んであった4つの宗派を「念仏無間、<sup>むげん</sup>禅天魔、真言亡国、律国賊」と激しい言葉で批判しており（<sup>しか</sup>四箇格言）、他宗派に協力をよびかけたことはない。
- ③ 正 『法華経』では、宇宙を支える唯一の真理である一乗妙法を体現したものが<sup>くおん</sup>久遠本仏（過去から現在、未来まで永劫人々を教化し続ける仏）であるとされる。ここから日蓮は、法華経の教えに従うことで末法の世であっても救いはもたらされると考えた。
- ④ 正 日蓮は、自らを『法華経』に説かれている、迫害を受けることを法難として理解しながら教えを広めようとする**法華経の行者**であるとし、また自らを上行菩薩（『法華経』に登場する4人の菩薩の1人）にたとえて教えを説いてもいる。

問4 23 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- a 朱子学者として活動する一方『大和本草』や『養生訓』を著し、実証的な学問研究で広範な成果を残したのは**貝原益軒**である。本居宣長は『古事記伝』『源氏物語玉の小櫛』などの著書を残して国学を大成した人物である。
- b <sup>なかもと</sup>富永仲基は<sup>しゆつじょうごご(こうご)</sup>懷徳堂で学び、著書『出定後語』の中で自らが提唱した**加上説**（後代に登場する思想は先行する思想に新たな要素を加えて凌駕してゆく）にもとづいて仏教や儒教の発達史を体系づけた。<sup>しやうえき</sup>安藤昌益は18世紀頃の思想家で、著書『自然真営道』の中ですべての人が農業を行う**万人直耕の社会**を理想とした。
- c 朱子学者は聖人の教えを誤解していると考え、儒学の原点である六経に立ち返って聖人の教えを明らかにしようとする**古文辞学**を提唱したのは<sup>おぎゅうそらい</sup>荻生徂徠である。<sup>はくせき</sup>新井白石は<sup>いえつぐ</sup>徳川家継・<sup>いえのぶ</sup>家宣の代に政治改革を行った思想家で、著書『<sup>きぶん</sup>西洋紀聞』などによって洋学の祖ともされている。

以上より、aが貝原益軒、bが富永仲基、cが荻生徂徠となる④が正解である。

## 問5 24 正解は③

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 誤 後半部分が誤り。石田梅岩は、自らの経験と儒教・神道・老荘思想・仏教の教えを融合させて独自の思想である石門心学を提唱した。その内容は著書『都鄙問答』にまとめられている。
- ② 誤 後半部分が誤り。石田梅岩は44歳のとき自宅に講席を開いて自らの教えを説いたが、その席は謝礼不要・紹介不要であり、男女や身分の上下を問わず誰でも参加することが可能であった。この席は徐々に人気を博すようになり、後には大阪に出講するほどとなった。
- ③ 正 石田梅岩は士農工商の各身分をそれぞれが社会に不可欠な存在であり、身分は社会的分業を示すものであると考えた。特に貶められがちであった商人の利潤追求を肯定し、同時に町人としての道徳をもつことも説いた。
- ④ 誤 確かに石田梅岩は町人にも守るべき道徳があるとし、正直と儉約を説いて自らの職業に満足する知足安分を勧めたが、一方で利潤追求を肯定し、従来の卑しい行為であるという固定観念を改めようとした。

## 問6 25 正解は④

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 誤 本選択肢は新島襄の説明である。彼は1870年代初頭の岩倉使節団に随行してアメリカの教育を視察し、帰国するとキリスト教の精神にもとづく教育を広めるために同志社英学校・同志社女学校を設立した。西周は明六社の一員として活躍した思想家で、「哲学」をはじめとする多くの哲学用語を考案したことで知られる。
- ② 誤 本選択肢は中江兆民の説明である。彼はルソーの『社会契約論』を訳した『民約訳解』を著してルソーを日本に紹介し東洋のルソーとよばれたほか、『三酔人経綸問答』などの著作を残し、自由民権運動の理論的支柱となった。
- ③ 誤 本選択肢は福沢諭吉の説明である。彼は欧米視察で得た知見をもとに『西洋事情』などの著作を生み出したほか、日本の封建制度を批判して「門閥制度は親の敵でござる」と述べたことも有名である。その他『文明論之概略』や有名な『学問のすゝめ』などの著作を残し、啓蒙思想家として大いに活躍した。
- ④ 正 植木枝盛は著書『民権自由論』の中で天賦人權論や主権在民などを主張し、民権思想の普及に尽力したほか、私擬憲法『東洋大日本国国憲按』でも知られる。

## 問7 26 正解は③

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 誤 本選択肢は西村茂樹の説明である。彼は日本弘道会を設立したほか、『日本道徳論』を著し、皇室中心主義の立場から欧化主義を批判して仁義忠孝に価値をおいた。

- ② 誤 本選択肢は**阿部次郎**の説明である。彼は自己の人格の向上に価値をおき、そのために真・善・美を求める**人格主義**を提唱したほか、著書『**三太郎の日記**』でも知られる。
- ③ 正 **三宅雪嶺**は、同じく**国粹主義**を唱えた**志賀重昂**らとともに**政教社**を設立し、雑誌『**日本人**』を刊行して政府の欧化政策を批判した。
- ④ 誤 本選択肢は**北一輝**の説明である。彼は著書『**日本改造法案大綱**』で天皇と国民を直結させる政府をつくることを説き、二・二六事件に思想的影響を与えた。

問8 27 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 後半部分が誤り。「私たちの欠点はかえって神の完全性を示すことになる」「私たちの弱さは神の強さを確認させることになる」と述べているように、伝道によって神の完全性を示すことに内村鑑三は肯定的である。
- ② 誤 確かに設問文では「私たちは欠点を指摘されることを厭わない」と述べられているが、それはその弱さや欠点が神の強さや完全性を示すことになるからであり、人々に弱さを克服する意志をもたせるからではない。
- ③ 誤 確かに設問文では「私たちは……私たちを経由して人々を神のもとへと導こうとする者である」と述べられているが、それは自己鍛錬によってではなく、むしろ自らの弱さを示すことによってなされると述べられている。
- ④ 正 本文の内容を全体的に踏まえており正しい。

問9 28 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 後半部分が誤り。本文は自らに徳を求めて自己の修養を行った石田梅岩らにふれてはいるものの、徳を人々に認められることが重要であるとは述べられていない。
- ② 正 本文の内容を全体的に踏まえており正しい。
- ③ 誤 前半部分が誤り。悪人としての自覚をもった親鸞や、『法華経』を通じて自己の存在意義を見出した日蓮にふれられているように、教えを説く者には自らの立場を反省的にとらえた者がいた。
- ④ 誤 後半部分が誤り。西村茂樹が「誰か一人を師として信奉するような態度を批判」したことにふれられているように、先人たちの営みが神仏や師に全面的に依拠しようとする姿勢に支えられていたとはいえない。

(井口凜人、有田瑞生)

## 2018年度 センター試験 本試験 倫理

### 第4問 遊びの意義や役割

出題範囲	西洋近代思想
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：9分 ふつう：12分 苦手：14分
傾向と対策	西洋思想からおもに出題された。各問題は基本的な知識や読解で解けるものの、選択肢の中には普段見ないような思想や人物について記されているものもあったため、解説をしっかりと読んで覚えるようにしよう。

問1 29 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 後半部分が誤り。ヘーゲルによると、欲望の体系である市民社会においては、個人は一見自立しているものの実のところ経済体制の中に組み込まれており、また家族においては、かつて家族愛として実現していた人倫は失われている。そのため、最終的には国家において家族愛と自立を両立した人倫が実現するとされる。
- ② 正 法は強制力をもつ一方で内面には影響しないため形式的になるおそれがあり、道徳は内面において作用するが強制力をもたないため効力に疑問がある。この2つは対立する段階を経て最終的に強制力と内面の自発性をともに実現した人倫に統合されるという。
- ③ 誤 ヘーゲルによると、国家においては法と道徳が統合され、社会制度として具体的な倫理である人倫が実現するとされる。法が定められ人倫の喪失が生じるのは国家ではなく市民社会においてである。
- ④ 誤 後半部分が誤り。家族は人倫の第1段階であり、そこにおいては家族愛にもとづく自然な人倫が実現しているが独立性には欠ける。その後、市民社会における喪失を経て最終的に国家において人倫の完成がもたらされるとされる。

問2 30 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 ルソーの思想。ルソーは、国家が誕生する前の自然状態は牧歌的で平和であったが、私有財産の発生によって搾取と貧困が生まれたとした。そこで、自由で平等な社会を実現するためには、人々は自身の権利を国家に譲渡し、共同体の一般意志に従うべきだと説いた。

- ② 誤 デューイの思想。デューイは、知識や理論は不変的なものではなく、人間や生活に便利なものでなくてはならないとした。そして生活改善に有用な知識を求める理性のことを**創造的知性**とよび、教育によってこれを育てることでよりよい社会を形成できるとした。
- ③ 誤 アダム・スミスの思想。スミスは自由な経済競争が経済を発展させるとして**経済的自由放任**を説き、自由な経済活動は結果として（神の）**見えざる手**によって公共の利益の実現につながるとした。
- ④ 正 ロックの思想。ロックは、人々は社会契約によって国家に自然権の一部を信託したうえで、国家による自然権の侵害を防ぐために国家の権力を分立させるべきだと考えた。

問3 31 正解は⑤

難易度 ★★★★★

解説

- a 18世紀までのヨーロッパにおいてはイギリスの**経験論**と大陸の**合理論**が長いこと対立していた。イギリス経験論はベーコンやヒュームに代表され、認識は経験にもとづくことを主張した。一方の大陸合理論はデカルトやライプニッツによって説かれ、認識は理性によってなされるとした。この2つを統合して**批判哲学**を打ち立てたのが**カント**である。
- b 外界にある対象は**感覚**を通じてもたらされるが、それだけでは認識は成立せず、そのままでは理解することができない。
- c 感覚によって得られた情報を**概念**にもとづいて秩序立て、認識を成立させるのが**悟性**のはたらきである。このように認識は常に悟性のもとで行われるため、外界にある対象そのまま（**物自体**）を認識することはできない。

以上より、aが**合理論**、bが**感覚**、cが**概念**となる⑤が正解である。

問4 32 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ア 誤 「**知は力なり**」と説いたのはコペルニクスではなく**ベーコン**である。彼は、自然を支配するにはありのままの自然を観察して法則などを知る必要があるとした。なお、**コペルニクス**はそれまで当たり前とされていた**天動説**を否定して、地球やほかの天体は太陽を中心として回っていると**地動説**を唱えた。
- イ 正 ニュートンに関する正しい説明である。彼は質量を有するすべての物体間に作用する引力として**万有引力**を提唱し、近代物理学の基礎をつくり上げた。
- ウ 正 **レイチェル・カーソン**に関する正しい説明である。彼女は著書『**沈黙の春**』において、殺虫剤 DDT やその他の農薬の大量使用により生態系が破壊されていると警鐘を鳴らした。

以上より、**ア**が誤、**イ**が正、**ウ**が正となる④が正解である。

問5 33 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 「遊び道具さえあれば一人でも飽きずに楽しめる」という部分が誤り。問題文では、1人で遊んでいるように思われる技の遊びでも、競争相手や観客がいなければすぐに飽きてしまうと、それらの遊びには競争的要素があるとした。
- ② 誤 競争相手や観客がいないとすぐに飽きてしまうとはされているが、上達しないとは述べられていない。人は、1人で遊んでいるときにも見えない競争相手に勝とうとしており、その中で上達を図っているとした。
- ③ 誤 本文では、1人で遊んでいるように見える技の遊びも潜在的に姿の見えない競争相手に勝とうとしていると説いているが、競争の遊びが技の遊びよりも高尚であるとは述べられていない。
- ④ 正 本文の趣旨を適確に捉えた文章である。本文では、遊びは一見個人的娯楽に見えるものも、実は姿が見えない相手と競っているのだと主張している。

問6 34 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- ① 正 ウィトゲンシュタインは彼の後期の哲学において、人間は他者との言語活動を通じて適切な言語の使用方法を獲得すると考え、お互いに伝えたいことを適切に表現しようとする言語のあり方をゲームになぞらえて表現した。
- ② 誤 本選択肢はソシュールの思想の説明である。ソシュールは言語を具体的な発話行為（パロール）とその背後にある構造（ラング）とに区別し、ラングの内容を明らかにすることではじめてパロールの意味を理解することができる考えた。
- ③ 誤 本選択肢はラカンの思想の説明である。彼は「無意識は他者の言葉である」と述べているように、人間は言葉を通じて他者の欲望を自身の欲望として受け取るようになると考えた。
- ④ 誤 脱構築はフランスの哲学者デリダによって提唱された概念である。彼は、西欧の思考様式には潜在的な二項対立にもとづく秩序があると考え、それらを解体する方法として脱構築を提唱した。

問7 35 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 本選択肢はドイツの哲学者カッシーラーが提唱したアニマル＝シンボリックムの説明である。彼は言語や記号などのさまざまな象徴をあやつる存在としての人間に着目した。
- ② 誤 本選択肢はスウェーデンの植物学者リンネが学名をあたえる際につけたホモ＝サピエンスについての説明である。人間をほかの動物よりも知性の面で発達しているとする考え方にもとづいている。
- ③ 正 フランスの哲学者ベルクソンは、人間はある目的を達成するために道具を作成し、それをういて環境を



変化させながら発達してきた存在であると考え、人間のそうしたあり方を**ホモ＝ファーベル**と表現した。

- ④ 誤 本選択肢はルーマニアの宗教学者**エリアーデ**が提唱した**ホモ＝レリギオースス**の説明である。彼は靈魂や神の存在を信じ、宗教という文化を発展させてきた人間のあり方に着目した。

問 8 36 正解は③

難易度 ★★★★★

**解説**

- ① 誤 本文において遊びが労働を促進するための息抜きや気分転換として必要とされたとは述べられているものの、「子どもよりも、むしろ大人にとって重要である」とは述べられていない。むしろ、本文において、「ロックは、道徳や教育を重視する立場から、仕事や勉学を促進するための息抜きや気分転換としてのみ、遊びの価値を認めた」とあるので、子どもにも大人にも同様に重要とされていたと推測できる。
- ② 誤 前半部分は正しいが、「20世紀に入ると、宗教や法律によって社会の規律が強められた結果」という部分が誤り。本文では、20世紀に入ると遊びは人間の社会活動を理解する鍵として重要視され、宗教や法律は自由で自発的な遊びから生まれたとする思想が唱えられた。
- ③ 正 本文の内容を包括的に表した文章である。
- ④ 誤 「20世紀に入ると、人間の社会的活動が実目的から離れた結果」という部分が誤り。本文では、20世紀における社会的活動が実目的から離れたとは述べられておらず、あくまで社会の基盤が自由で自発的な遊びから生まれたとしている。

(井口凜人, 有田瑞生)